

サロン・あべの

Vol.114

サロン・あべの11月の出会い

95年11月18日(土) 午後1時
より、育徳コミュニティセン

サロンで 出会った人達

ター2階研修室において、サロン・あべの11月の出会いを開催した。

11月のパネラーは、「サロン

淀川」代表の窪田新一氏。「サ

ロンで出会った人達」これからのサロンの考える」のテーマで、お話しをしていただいた。

ちょうど2年前の10月から11月頃、大阪市社会福祉協議会の脇坂氏と淀川区社会福祉協議会から、淀川区にも「サロン」を作ろうという呼び掛けがあった。



窪田新一氏 (吉田幾俊・画)

何度かの打ち合わせや、実際にサロン・あべのの出会いに参加したりするうちに、いつの間にか代表になっていた。

最初は、運営メンバーを集めるのに苦労をした。講師探しも大変である。近頃では、参加者などからの推薦もあるようになったが、やはり悩むところであ

る。

半年ほどの準備期間の後、94年6月に、第1回目の出会いを開催した。講師は、地元のコミュニティ紙「ザ・淀川」の編集長に来ていただいた。さらに、2回目、3回目の出会いには、その編集長の紹介から始まり、コネとツテでなんとかパネラーをつないでいっている。

本来ならば、土曜日日曜日は串本辺りで釣りざんまいのほすが、今はサロンの運営のことで手一杯。会社の昼休みまでワープロを打っている程である。

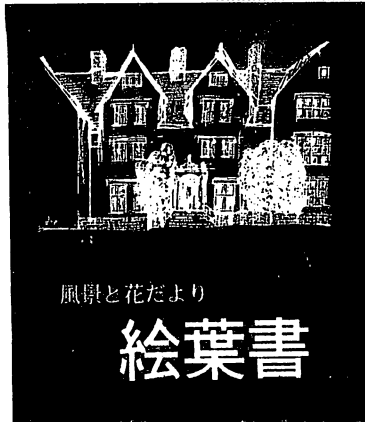
「サロン淀川」の出会いの歴史は、昨年10月に救急救命法の説明があり、11月はスペイン村の見学旅行(日帰り)。12月はウィズ東淀川と合同のクリスマス会。今年1月は、震災で中止にしたものの、2月には盲導犬をテーマに出会いを開催。それ以降は、やはり震災関係の話が多くなっているが、9月のポル

好評

サロングッズ



△好評▽



△好評▽



トガルギターへと続いている。
淀川のサロン紙は、毎月4〜5頁(A4判)で100部発行している。助成金をもらう関係で作り始めたが、原稿集め、紙面作りに苦心している。旬の題材が大切と考え、出合いの当日ぎりぎりまで原稿を手直した上

で、その日の午前中にコンビニでコピーをして作っている。
サロン活動は、出合いとサロン紙の発行だけでいいものだろうかと思う。「何か」を求めて参加している人達に「何か」を伝えて行きたい。また、体を動かすことも大切である。いろいろ

るところへ出掛けて行き、顔を出す事で、ほかとのつながりが生まれて来るものである。
また、途中「イキイキ度テスト」というペーパーも配っていただいた。これは、グループの中でメンバーが、互いに補い合うための指標になるようなもの

であった。
人前で話しをするのは苦手だとおしゃっていたが、ユーモアたっぷり、長時間であったが、最後までお話しをしていただいた。
参加者20名。(上平幸雄)

阪南中学校の文化祭

前夜の雨がウソのように晴れ上がった平成七年十一月十五日(水)、大阪市立阪南中学校で第四一回目の文化祭が開催されました。体育館では、演劇や合唱の発表会が行われ、教室では各学年やクラブ活動の展示会が催されていました。

この夏、阪南中学一年五組の女生徒六人衆に、さろん亭をお手伝いいただいた内容も紹介されているとご案内をいただき、この日拝見にでかけました。

あいにく、展示会場が二階の教室ということで、先生方に車椅子ごと担ぎ上げていただき、奥田陽子さんの介助をうけて、一年生のボランティア活動に関する研究発表をゆつくりと見せていただきました。

老人方に差し上げる予定で各人が、それぞれのやさしい言葉を書いた団扇が花束の

ように展示されているコーナーや、空き缶・クーポン券収集についてのコーナー、神戸の再復興を願うコーナー等、皆さんの目のつけどころの確かさに、一つ一つ驚きと感嘆の声を飲み込みながら拝見しました。その中で、障害者や老人介助、さろん亭のお手伝いの実体験をされた一年五組の展示内容には、喜びを感じました。

ボランティアという言葉は、快い響きがあり今注目されていますが、実行に移すことは勇氣と行動力がなくては出来ないことです。汗を流し、相手の思いを問いかけたり、思いやる心がなくては出来ません。それを立派にやりとげられ、その体験を表に出すことなく相手の紹介を簡潔にまとめて紹介されている内容に、ほんとうのボランティア精神を見せていただいた思いがしました。

今回の体験を基礎にしてこれからも、いろいろなボランティア体験をされ、より豊かな人になって欲しいと思いました。

隣の美術展示の教室も見て、芸術の秋もちよっぴり楽しませていただきました。

一年五組の皆さん、ありがとうございました。(K)

朗読テープのご案内

山本敏子さんのご協力で、Aサロン・あべのV紙一―二号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、一―三号の分があります。五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本にそれぞれ収録されています。又、絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)、「ラジオたんば」六月四日(日)放送のAサロン・あべのV五月の出会い取材テープ(三〇分)もあります。

いずれもご希望の方には、ダビングをします。富田までお申し出下さい。

(☎ 〇六九一―〇二八)

土星の環

十五年ごとに土星の環が消滅する。といつても、太陽光線が環の真横から当たるために、なくなったように見えるだけ。土星つて環があるから美しいし、人気も高い。なにがなんでも「かるた」です。

獲得を希望 二五円

作る つくる 創る 河合恵子

語りの魅力

十一月十八日、東京・銀座セゾン劇場で第四回語り部コンクールが開かれました。出場したのは全国公募の中から選ばれた十人。五時五分から始まったコンクールのトップバッターは南光仁子さん。ご主人、龍平氏の声援を受けながら語ったのは、矢崎節夫作「さくらのさくひ」。年老いた桜の木とその木が枯れかけたことを知って木の根元に水を運び続けるもぐらの物語。再び美しい桜の花を咲かせたことを知らずにもぐらは亡くなってしまうという、ちよっぴり悲しい内容なのですが、舞台中央の大きな桜の木には柔らかな照明があたり、優しい雰囲気に含まれて

います。スポットライトを浴びて車イスに座る南光さんは、さくらにちなんで求めたという淡いピンクのブラウスがとてもお似合い。出だしの



音響の不備にも関わらず、落ち着いて語る南光さんの声は普段とは別人のよう。すっかり桜ともぐらになりきり、その心情が観客に伝わってきます。この語りで南光さんはナイス

ハート賞を受けられました。

グランプリは生駒市・上埜英世さんの「葵の上」。地唄舞いによるユニークな語り。鬼気迫る源氏物語絵巻です。準グランプリは奈良市・伊藤樹里さんのフランク・アッシュ作「ぼく お月さまとはなしたよ」。森に住むくまさんが月と会話して帽子をプレゼントするのですが、話した相手というのは本当は山彦。とても無邪気で心の暖かくなるユーモアに富んだお話。審査員特別賞は「ベロ出しチョンマ」の埼玉県・宮城好子さん。生きているから色つぼいふしぎな生命力の躍動がある語り。作品を通して語る人の個性がダイレクトに伝わる魅力的な世界です。

連載 二十六

高齢者と在宅介護

井元 真澄
いもと ますみ

五 震災被災地域の住民生活実態

〈被災地における実態調査より〉(5)

〈調査の結果〉

二、震災に際して受けた支援

前回より引き続き、「受けた」支援についてみていきます。

【在宅生活者】

⑥受けた支援・病人や高齢者の介護

支援を受けたのは一割に満たず、「親戚から支援を受けた」が二%弱ある程度です。

⑦受けた支援・外出の手助け

支援を受けたのは約一割で、「親戚から支援を受けた」が一・九%みられます。

⑧受けた支援・子どもの世話

約一・五割の人が何らかの支援を受けており、支援先としては、「親戚から支援を受けた」が四・三%みられる程度です。

【仮設住宅入居者】

在宅生活者と同様に、震災に際して受けた支援内容と、支援をしてくれた人について複数回答でたずねました。

全体的な傾向として、支援を受けたのは

「食料の炊き出し」が最も多く、「水くみ」、

「家のかたづけ」、「買い出し」などが主な

内容となっています。支援をしてくれた人は、

「給水場からの水くみ」では「ボランティア」、

「親戚」、「近隣」が多く、「食料の炊き出

し」は「ボランティア」、「親戚」、「食料

や日用品の買い出し」は「親戚」、「ボランティア」、「家のかたづけ」が「親戚」となっています。

在宅生活者と比較すると、全体的に支援を受けている割合が高いことと、ボランティアによる支援が多くみられることが特徴的です。以下、詳しい結果を紹介します。

①受けた支援・給水場からの水くみ

約半数の人が支援を受けています。

「ボランティア」が二三・七%と最も多く

「親戚」一六・一%、「近隣」一三・二%と

続いています。

震災直後は避難所にいた人が多いため、在宅者に比べてボランティアからの援助の割合が高くなっていると考えられます。

②受けた支援・食料の炊き出し

約七、五割の人が支援を受けています。主な支援者は「ボランティア」で、五二・二%と、半数を超える人があげています。そ

れ以外は、「親戚から支援を受けた」二〇・四%、「近隣の人から支援を受けた」一一・二%となっています。

炊き出しにおけるボランティアの活躍が表れているといえる。

★ 支配することと愛すること

人にとって、もつとも強い欲望のひとつは、人を支配したいという気持ちだろう。それは自分以外の人を自分の一部にしたいという欲求だ。他の人びとが自分の一部のように動いてくれたら、自分のやがて衰え消えていく運命や、いまの小さくみじめな姿さえ忘れることができる。

この欲望が抑えられないのは、「愛」という美しい感情に似せて、その本当の姿を隠しているからだ。古い時代の王は、自らの支配欲を国や民への「愛」と名づけて、慈悲深い独裁者を演じていた。

古代の王だけではない。私たちの身近な集団や組織を考えても、支配しようとする人たちは、しばしば自分の愛を口にするし、自分でもそこに愛があると信じている。

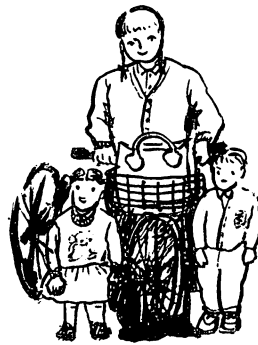
家族の愛でさえ例外ではない。子を慈しむ母の愛は何よりも貴まれているが、

そこには親が子という、本来は別の人格であるはずの人間を支配する快さが潜(ひそ)んでいる。でなければ、日々に子に寄りそう母の腕が、その子によって傷つけられるはずがない。

誰も支配されることを望んでいない。人が愛を拒むのは、そこに支配の意図を感じるときだ。世話好きの人々を嘆かせる「恩知らずな人」は、世話好きな人が「愛」と呼ぶ感情のただなかに、支配への欲求を見てしまったのである。

愛が身近な感情であるように、支配への欲求も身近なものだ。私のような教員にも支配への誘惑は大きい。「弟子」や「子分」のような形で学生や卒業生を自分の周りに集めようとしたら、私は、支配したいという自らの欲求に屈しているのだ。

独裁者の横顔に見るように、支配する



人々の根を覆っているのは、孤独という感情であろう。支配しようという衝動から解放されるためには、自分の孤独と向かいあわなければならない。

支配が、愛と矛盾なく行われるのは、その対象が自分自身へと向かうときだけではないか。自分の生活を本当に自分のものとするとき、自分をより深く愛することができるかもしれない。他の人の支配へと私たちを動かしているのは、おそらく、自分で自分を律することができない弱さなのだ。(知)

美智子のこんな話

岸田 美智子

本当に二四時間対応できるの？

大阪市が来年度の目玉の制度として、二四時間巡回型ヘルパー導入を考えていると発表しました。現在、ヘルパーを養成し、実施に向け検討されています。

これまで大阪市では、ヘルパー派遣時間帯を朝八時すぎから夕方六時まで派遣されていますが、実際には一週間に二回くらいで、一回につき二〜三時間程度が現実です。それに、土・日や祝日は、派遣されませんし、年末、年始も派遣されません。そして、入浴介護も実施されていません。

このような現状では、障害者の地域での

自立生活を支えていくことはできません。そこで私達は、休日派遣や入浴介護の実施、同性介護を保障するために男性ヘルパーの増員、朝・夕・夜間も対象にした二四時間の保障ができる体制を要求してきました。

でも、大阪市はこのような問題を置き去りにして、二四時間巡回型のヘルパーを実施すると言っています。この二四時間巡回型ヘルパーというのは、もちろん女性ヘルパーが多く、その家にヘルパーが居られる時間は、一回につき三〇分程度と考えられているそうです。

主に寝たきりの老人のいる家庭への応援としてしか考えていないようです。三〇分というのはオムツ交換や寝返りなどくらいしか考えられていないようです。決まった時間に来るので、トイレの介護をオムツ交換でしか保証できないのだと思います。体調によってトイレに行く時間が変わるのが当然なのです。それ以外の介護は、家族の方や同居人がする、というのが前提のようです。

これはまさに施設の定時排泄を在宅に持ち込んだだけではないでしょうか。地域で

暮らす障害者の生活は、このような巡回型では保障できないと思います。

障害者の生活は、食べてトイレに行くだけではないですし、いつ介護が必要になるかわかりません。

このような在宅障害者の自立生活を支えていくためには、巡回型ヘルパーではなく、滞在型ヘルパーの派遣時間の拡大や同性介護の保障、土・日・祝日派遣の実現、そして、入浴介護の実施が優先だと思っています。

老人の方も寝てばかりいるとは限らないし、どんどん起きて車椅子で出かけたり、いろいろな仕事をそれなりにやったり、リハビリなどをしたりしていく方が、より良い生活ができるはずですよ。

〃日本の寝たきり老人はつくられる〃といえます。その現実を変えていくためにも滞在型の二四時間対応ができるヘルパー制度実施が望まれると思います。

どこでも、誰でも、いつでも利用できる介護ヘルパー制度が一日も早く実現してほしいものです。

☆連絡先 ライフネットワーク

〒五五八大阪市住吉区大領五一十一十六

TEL〇六一六〇七一八二六〇

広く受け止められる福祉機器

紅葉の美しい頃となりました。

いつも「サロン・あべの」紙をお送り下さり、ありがとうございます。

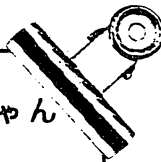
福祉機器のお話は、私も年齢を重ね、いつ何時お世話にならないといけない道

具類で、老人分野や一般にも広い範囲で受け止められているとのご説明。

「ユーダ」で開発された主な商品の数々、

中でも「傾く洗濯機」は、私たち健常者には考えつかない事。勉強になりました。

これからも良い企画のもと、頑張ってください。
秀 翠



おもしろい 姉ちゃん

才能のなさにガツクリ

秋ですね。(いや、もう冬かな?) 私は、この9月より11月26日の小豆島タートルマラソン(私は21kmしか走りません)を目指し、ほとんど毎日走っております。

最初は、3kmが苦しかったのが、21km走れるようになり、ルンルンしていたのです。ところが、ところがです。学園の子に3kmのランニングにつきあってくれと言われ、一緒に走ってみると、コースの半分ではっ



ていかれてしまったのです。

ああー、やっぱり私の半分しか生きてないような若い男の子と一緒に走れるわけがなかった。

でも、一人の夜道がイヤな彼は、今日も私を誘ってくれるのです。

田 淵 美登利

お知らせ

サロン・あべの一月の出会い
『手をつなげたら、うれしい。』

サロンの新年会

日時 一月二十日(土) 十二時より
会場 ホテルエコーオーサカ九階

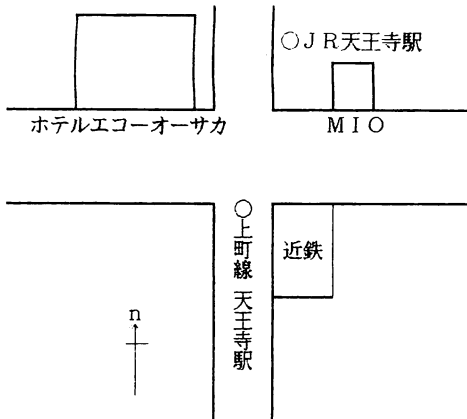
「ラウンジ・パーク」

会費 二千五百円

備考 予約の都合がございますので、一月十日までに必ずお申し込みください。

お申し込み・お問い合わせ先

☎〇六―六九一―二〇二八 (富田慶子)





サロン隣組ニュース

楽しく過ごそう

ピアフェスタ95 in ハヤカワ

■「サロン淀川」

○サロン淀川1月の出会い

日時・平成8年1月21日(日)

午後1時30分～3時30分

場所・淀川区在宅サビセンター「やすらぎ」

【大阪市淀川区三国本町2-14】

内容・「うたとゲーム」

～みんなで歌おうナツメロ～

パネラー・三国ひじり幼稚園

安達 徳 氏

会費・なし

問い合わせ先・☎06-306-2900

大阪市淀川区社会福祉協議会

ボランティア・ビューロー

■「ウイズ東淀川」

○「ウイズ東淀川の出会い」

日時・平成8年1月14日(日)

午後2時～4時

場所・東淀川会館3階(エレベーター利用可)

内容・ナチュラリズム

【やさしい心で接しよう】

講師・奥野 順一郎 氏

会費・なし

問い合わせ先・

電話06-340-3082(鈴木昭二)

FAX06-320-4004(宮脇 均)

地域のなかでともに生きるために、
わたくしたち障害者が主人公となって
企画・運営する年1回のイベント、こ
れが「ピアフェスタ95 in ハヤカワ」

日時 平成7年12月9日(土)

場所 大阪市立早川福祉会館

【東住吉区南田辺1-9-28

☎06-622-1180・0123】

入場無料、楽しく過ごしませんか?

ピア☆フェスタ 9:30～1:00

バザー 10:00～1:00

フードコーナー;喫茶店・おでん、ジュース

アートディスプレイ; 鶴、川、緬

体験コーナー; 点訳、音訳、手話等

自助具の展示; つかいやすい工夫品

ピア☆ステージ 2:00～4:00

・手話コーラス ・ぴあ亭ひよこの

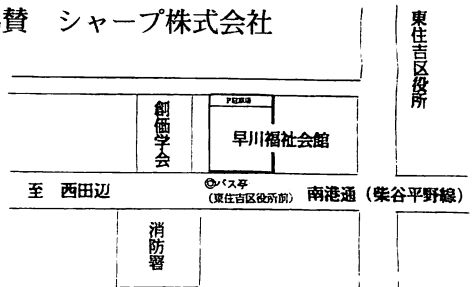
手話落語 ・奥塚明のフォークソング

・大杉本&ビックフェイスのカ

ントリー&ウエスタン

主催 ピア☆95 in ハヤカワ実行委員会

協賛 シャープ株式会社



第52回国民体育大会
おおさか ふれ愛 夢づくり
なみはや国体



第33回全国身体障害者スポーツ大会
ふれ愛びっく大阪
ときめいて今 はばたいて未来

BOOKS

<サロン・あべの>の本▶

書名	著者	出版社
私の歩んだ道	黒田大作	自費出版
社会をリハビリに		
お話ひとこと	岡部伊都子	冬樹社
現代の差別を考える	全国同和教育制度協議会事務局	全国同和教育制度協議会
OSAKA「車いす」街図	堂ノ元斉	大阪車いすガイドマップを作る会
肢体不自由児・者を中心とした 社会福祉マニュアル		全国肢体不自由児・者父母の 会連合会
東大阪ボランティアハンドブック		東大阪社協ボランティアセンター
友愛訪問活動の手引き		大阪市社会福祉協議会
ボランティアかつどうの手引き		大阪市社会福祉協議会
サロン・あべの紙合本①N01~45	S 6 1. 7~H 2. 3	サロン・あべの運営委員会
サロン・あべの紙合本②N046~69	H 2. 4~H 4. 3	サロン・あべの運営委員会
サロン・あべの紙合本③N070~93	H 4. 4~H 6. 3	サロン・あべの運営委員会
絵手紙と自分詩	池田 縁 (ゆかり)	自費出版
キミたちだけじゃ困るんだ 身障者だけで旅した10余年	山田 誠	自費出版
生きてゆくこと	内海妙子	産経新聞生活情報センター
愛ひとり旅—ジャンソソととび—	奥田真祐美	ヒューマガジン
牛は水を飲んで	桑原一郎	自費出版
忘れ得ぬ日々—学園疎開を体験した少女の記録—	林 三起子	自費出版

○<サロン・あべの>にご寄贈いただきました本が新しく追加されました。

多くの皆様にも読んでいただけたらと思います。

ご希望の方は、下記までお問い合わせ下さい。

〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. ☎06-691-1028. (富田慶子)

FROM EDITOR 編集後記

サロン文庫に新しく加わった本の紹介を10頁に載せて
おります。この中にサロン・あべの紙合本①②③が入って
います。これは61年7月発行の創刊号から全号を合本し
たものです。連載をもう一度通して読みかえしたい方、あのと
きの出会いを思い出したい方、サロンの歩みを読みたい方、
ご利用ください。南光さんおめでとうございます。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.114[95.12. 2 発行] 定価¥100.

代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365

連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028

表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子

印刷；セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F

TEL 06-719-8212 FAX 06-719-8213